

じょうこうじ

掟光寺だより

令和4年
3月号

行事案内

●3月7日(月)

「涅槃会 日蓮聖人ご降誕会」

13時30分から

●3月21日(月・祝)

「春彼岸中日会」

13時30分から

●3月27日(日)

「漸読千部会・付け施餓鬼法要」

9時00分から

仏教たとえ話1

【流れる水を止める男】

欲・転嫁

昔、ある男が道を歩いていたら、急に喉が渇いてきた。そこで、道ばたに竹筒(水を引くために仮設した樋)があり、その中をきれいな水が流れていた。

男はこれ幸いと、ごくごく水を飲んだ。飲み終わった後、男は篋に向かつて、「飲み終わったから水よ、もう流れてこなくてもいいぞ」と言った。

しかし、そう言ったところで、もちろん水が流れるのは止まらない。男は「充分に飲んで満足したのだから、もう流れてこなくてもよいのに、どうして流れてくるのか。」と篋に怒った。

それを近くで見ていた人は「なんと愚かな男なんだ。水に出て来るなどというくらいなら、どうして自分が立ち去ろうとしないのか」と言った。



世間の人もまたこのようではなからうか。生死の世界に激しく執着する(渴愛)のために、五欲の辛

い水を飲み、五欲が疲れて厭うようになるのは、水(欲)を満たしたからである。

そのとき、「色(形)や声、香り、味などの物たちよ、もう私に何も感じさせることがないようにせよ」と命令しても、これらの五欲はまた次から次へと表れて、無くなることはない。

五欲に怒って、どうして次から次へと私の前に来るのかとたずねても無駄なことである。五欲から離れようと思うなら、自分の眼耳鼻舌身意という六つの窓(六識)を整えて、コントロールして、さらにその窓を閉じて妄想を起こさないようにするしかない。(百喻経、第二)

※自分のせいで悪くなっているのに、人や物のせいになっている人は、流水を止めようとするこの愚かな男に似ている。

仏教用語解説

●渴愛

欲望の本質。心の渇き。満たしても満たしても満足しない。海水で喉を潤すとさらに倍の渇きとなって苦しむように、欲を満たせば満たすほど苦しみは大きくなる。

●五欲

欲は私たちが生きる原動力であるとともに、欲が過ぎれば私たちを悩ますものでもある。

- ①食欲…食べたい、飲みたい心
 - ②財欲…お金が欲しい、物が欲しい心
 - ③色欲…男が女を女が男を求めたい心
 - ④名譽欲…誉められたい、認められたい心
 - ⑤睡眠欲…眠りたい、少しでも楽がしたい心
- 【グイェット】↓食欲より名譽欲を強く起こしている。年齢を重ねると名譽欲が強くなる。

●色

物質的なもの(肉体、目に見えるもの)

●六識

6つの「認識」するところの働き。

- ①眼識…視覚・見る力
- ②耳識…聴覚・聞く力
- ③鼻識…嗅覚・嗅ぎ分ける力
- ④舌識…味覚・味を見分ける力
- ⑤身識…触觉・寒暖や痛快を感じる力
- ⑥意識…①～⑤から情報を統括し、「なぜそこにあるのか」など思考する力

①～⑥までは表面意識の世界。意識の下には無意識の世界があり、この二つを合わせて八識という。

- ⑦末那識…わたしという自我執着心
- ⑧阿頼耶識…心の蔵。今までの行い(業)が収まっている。死んでも残る。

